

おしえて！島野先生

第2回情報・意見交換会で皆さんからいただいた小中一貫教育についてのご意見、ご質問などに答えてもらいました。

Q. 卒業(小学校)の重み(感動)が減ってしまうのでは？

A. 先日もお話ししましたように、これまでの小学校6年間、中学校3年間の区切りや段差は大事にしながら、例えば小学校高学年から教科担任制を導入したり、部活に参加できるようにするなど、教育活動に応じた区切りを新たに設定することも検討していきます。
施設一体型の小中一貫校であれば、小学校を卒業しても同じ学校に通うこととなりますので、これまでとは違った感じがすると思いますが、学年の区切りを大切にするとともに、9年間を見とおした教育で中学校を卒業する重みは増すのではないのでしょうか。

Q. 学力を上げるための学校側の対策では？

A. 小中一貫教育はあくまで手段の一つであり、「小学校と中学校が力を合わせ、9年間を見おとして子どもの教育を発展的により充実したものへと高める」ことを目的として取り組むこととしております。ご指摘のような学力向上のためだけの方策という捉え方はしておりませんが、結果として、子どもたちの学力が上がれば、喜ばしいことだと思います。

Q. 体力に応じた運動会がむずかしい！給食はどうなるの？

A. 小中一貫教育であるから、小学校の運動会と中学校の体育大会を合同でするものと決めているものではありません。別々に実施するにしても、例えば小学校高学年の子どもたちを中学校の体育大会に参加させたり、小学校の運動会に中学校の生徒を招いて、低学年と一緒に競技に参加させたりするといった交流の工夫はできると思います。どのような形態で実施するかは、学校の判断によるものと考えています。
また、給食につきましては、現状の形態（小学校：全員、中学校：選択制・デリバリー方式）を変更する議論は行っていません。

Q. 学校の先生がたいへんそう。教職員の負担軽減はどのようにして行うの？

A. 「小中一貫教育等についての実態調査の結果」でも、「教職員の負担感・多忙感の解消」が課題と認識されている学校の割合は高く、なんらかの対応を行う必要があります。例えば、小中一貫教育に係る業務を中心に行う教職員の配置や、義務教育9年間を見とおした教育課程の作成支援、他市事例の紹介、その他業務削減に向けた取り組みを行う必要があると思っています。

Q. 先生の質に期待。優秀な教員を確保できるか。

A. 平成24年度から府費負担教職員の人事権が移譲されたことに伴い、豊能地区3市2町（豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町）で構成する大阪府豊能地区教職員人事協議会において、独自に教職員採用選考を行っています。このことによって、豊能地区の学校で先生になりたいという熱意をもった優秀な教職員を確保しやすくなっています。また、教職員の人材育成を意識した多彩な研修を通じて、教育力、指導力等の向上に努めています。

Q. 小学生が中学生につられて非行(タバコ、夜歩き等)に走らないか？

A. 先日もお話ししましたように、小中一貫校において、中学生は小学生に対して優しい気持ちで接する傾向があり、また小学生は中学生に対して憧れの気持ちを抱くという傾向があるようです。問題行動を行う生徒も中にはおり、ご指摘のような心配もあるとは思いますが、例えば小・中学校の先生が協力して生徒指導體制を構築したり、保護者や地域住民の方々、福祉系職員等と連携をとりながら対応にあたりたりすることで子どもたちの問題行動は抑制されるものと考えております。

Q. 今後、豊中の小・中学校はすべて小中一貫にしていく方向か？

A. 豊中市では、従前から中学校区を単位とした小中連携／一貫教育に取り組んでおり、今後もより推進する方向で進めていきます。ただ、地域の実情（現状、課題等）は異なることから、地域ごと（中学校区ごと）に形態や内容は異なるものと想定しています。

Q. 学校再編で地域に格差・アンバランスさが生じないか？また跡地の利用は？

A. 今回の再編は、小学校6校、中学校3校を一つの地域として検討していますので、格差やアンバランスが生じないように配慮しています。しかし、学校再編にあたっては、現在の学校敷地を活用せざるを得ないため、新しい学校の建設地に選ばれた地域と、そうでない地域で通学距離が異なりますし、学校敷地の状況によっては、学校の配置形態（施設一体型、分離型等）が異なることが考えられますが、同じ地域の学校としてそれぞれの特色を生かした教育活動が展開され、格差やアンバランスにつながらないものと考えています。

跡地の利用については、再編案が固まった後、地域の皆様のご意見を伺いながら決めていきたいと考えています。

Q. 「魅力ある学校づくり」も大切と思うが、「子どもが住みやすい、住みたくなる地域づくり」がより大切では？

A. 今回の「魅力ある学校づくり」は庄内地域の子どもたちが夢や希望をもてるように、子どもたちにとって望ましい教育環境の整備、充実を図るために取り組むものですが、あわせて地域づくり、まちづくりの視点も踏まえて、地域の核となる学校の魅力をより一層高めて、地域の活性化につなげていきたいと考えております。

学校の魅力が高まり、子育て世代が増えれば、まちが活性化する、といった好循環が期待できます。また、庄内地域では、公共施設の複合化に加えて、地域の活性化や課題解消に向けた（仮称）南部コラボセンター構想の動きもありますので、「魅力ある学校づくり」と連動させて、庄内地域の“起爆剤”になればと思っています。